

巻頭言

野口哲哉（岐阜教会）

主は共にいます

この夏、お一人の元ホームレスの方が自宅のアパートで亡くなりました。三重県から訪ねてきた実のお姉さんが見つめました。連絡を受けて、アパートに駆けつけると、すでに小さな棺に納められたUさん（64歳）の姿がありました。胃からの出血が原因の病死でした。「岐阜・野宿生活者支援の会」が自立支援に取り組んだ10人の中の1人。この間、「支援の会」の青年たちは、アパート生活に移行した元ホームレスの方々同士の絆（きずな）を作ろうと、教会で昼食会などを開いてきました。Uさんは内気な性質で、あまり出席されなかったもので、気にはなっていました。けれども、自宅を訪ねると、いつも笑顔で迎えてくださったことを皆が憶えていました。ご遺族の申し出もあり、火葬の後に教会で葬儀を行うことになりました。京都や大阪から来られたご兄弟の姿がありました。「支援の会」からは仕事を抜けてきた青年や、大学から駆けつけた青年が出席しました。遺影を見つめて、声を震わせていました。「僕らの力が足りなくて・・・」涙がこぼれていました。小さな小さな葬儀が終わりました。暑い日でした。

その日の牧師の説教は、創世記28：10-12からでした。

「時に彼は夢をみた。一つのはしがが地の上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た」。

野宿をしていたヤコブが、石を枕にして見た夢。Uさんも見たのではなかったでしょうか。たった一人で死を迎える心細さを通り抜けたUさん。僕らの力はたしかに足りなかった。けれども、Uさんの枕元にはイエスさまがおられたと信じよう。との話が語られました。

「岐阜・野宿生活者支援の会」の活動が始められたのが1999年12月。おぼつかない歩みの中で、大きな障壁や挫折に出会いながら、進んでいる。年を追うごとに深まっていくのは、人間の個々の存在の奥深さである。人に関わることによって傷ついたりしながら、しかしまた一方で光を見出し信頼を寄せていく。その繰り返しの中で、やってきている7年間である。この間、教会はたくさんのことを学んできたのも事実である。ホームレス支援特別委員会の働きによって支えられてきたことも多い。市民の方からもたくさん助けられた。しかし、なにしろイエスさまだ。そう思う今日この頃である。

「野宿生活者支援の会・香川」

塚田正昭（恵教会）

<はじまり>

2003年度の冬に、市民グループ「野宿生活者支援の会・香川」が発足しました。そして40名ほどの路上生活者がいるJR高松駅周辺を中心に夜回りを開始しました。

<現在の活動>

①夜回り

毎週木曜日の夜10時から夜回りを開始します。参加者は約10名です。夜回りの期間は、冬期の11月末から3月末です。今年も活動するために、現在準備中です。

「寒いですか?」「お体は大丈夫ですか?」と声をかけつつ、お茶、おにぎり、カイロ、冬物衣類、毛布などを必要な人にお渡しします。

②生活保護受給につながるように

高松市生活保護課への申請時に、一緒にうかがいます。その担当はボランティアで分担します。この活動は、夜回り期間が終了した4月から始めます。月に一度、生活保護受給者の定例会を開催します。生活状況を分かち合います。参加者は10名ほどです。

③四国の連帯

四国四県の連携を目指して、第一回四国交流会を2005年11月26日に開催しました。交流会には、高松市、徳島市の生活保護担当者、香川、徳島、愛媛の市民グループの方々が参加しました。高知市は文書にて報告がありました。

<教会の参加>

高松常磐町教会と、恵キリスト教会の有志が、活動に参加しています。

<課題>

活動の中心を夜回りとして、冬場に行いますが、生活保護受給後の自立へと支援すべきとの意見が出てきており、その必要性を痛感しているところです。そして現在の会の力量で、責任をもってその働きまで担えるかという、そのはざ間で議論をしています。手探りしつつ。

「NPO法人北九州ホームレス支援機構」 谷本仰（南小倉教会）

北九州では1988年の冬以来、ホームレスに対する支援活動が行われてきました。当初の炊き出しは30食。米などの食材は個人の持ち出しで始まり、黒崎カトリック教会が炊き出し会場でした。以来、ホームレスの増加に伴って炊き出しのお弁当の数は増加、炊き出しの輪も広がり、現在ではカトリック教会7、バプテスト教会5、日本基督教団1、在日大韓基督教教会1の計14教会と、カトリック関係福祉施設1カ所のあわせて15カ所で炊き出しが行われています。市民運動として展開されてきたホームレス自立支援活動を、キリスト教会が教派を超えたエキュメニカルな関わりによって支えているのが、北九州の支援活動の特徴の一つです。

北九州のホームレスの数は、3年前に約460を数えたのをピークに減少に転じ、現在は300名前後です。2004年の9月に「ホームレス自立支援センター・北九州」（以下センターと略す）が市によって開設されました。定員は50名で、入所期間は6ヶ月。その間に就労支援を受けて脱ホームレス、自立を目指します。現在第5期の入所者たちが自立を目指しています。センターの運営は認定NPO法人北九州ホームレス支援機構（以下支援機構と略す）が市と協働しながら担っています。この働きに伴って、実際にホームレスの数が大きく減少してきたことは、特筆に値します。

センターでの自立支援は、すでにセンター開設以前から支援機構が独自に始めていた「ホームレス自立支援住宅」の運営を雛形にしています。これは支援機構が借り上げているアパートに60歳以上の高齢のホームレスたちが入居し、半年間の入居を経て生活保護を受給しながら自立を目指すプログラムです。これまでに約80名のホームレスが自立を果たしました。現在第11期の入居者たちが11月末の出発式を目前にしています。入居者にはそれぞれにボランティアの担当がつき、家族のような役割を担って、彼らの自立を応援します。この方法が、センターでも援用されて実績をあげているのです。

また、自立後も孤立化やホームレスへの逆戻りを防ぐために、小倉と八幡の2カ所にサポートセンターが立ち上げられ、センターや自立支援住宅などから自立した後の元・ホームレスたちの生活の支援を様々な形で行っています。自立を果たした人々が再ホームレス化する率が北九州において特に低いのは、こうした取り組みに負うところが多いと考えています。

年明けにはホームレスの数を国が把握し分析するためのホームレス実態調査が全国一斉に行われることになっています。これは2003年の1月に実施された第一回の調査以来2回目の調査で、ホームレス自立支援法の制定施行と、これに基づいて実施された国や各自治体の自立支援の施策の成果を計るという目的

ももっています。この調査が万が一不十分不徹底なものに終わり、そこで得られたホームレスの数が実態よりも遥かに少ないものであれば、本当はまだまだ自立支援の継続・充実が必要であるのに、国や自治体は自立支援の施策を早々に打ち切る可能性があります。こうした事態を防ぐために、北九州ではまず支援機構が独自調査を行おうとしています。これによって実態をある程度事前に把握した上で、国と自治体による全国調査への協力をしたいと考えています。

12月9日には戸畑の「ウェル戸畑」にて支援機構が福岡県からの委託事業として引き受けている「担い手育成事業」の一環として「ボランティア養成セミナーin北九州」の開催が予定されています。講師に生田武志氏（著書「《野宿者襲撃》論」）を迎え、「なぜ少年たちは野宿者を襲うのか」という講演をいただく予定になっています。その後、中学校教諭で人権教育に関わってこられた加藤陽一氏と支援機構理事長の奥田知志氏（東八幡キリスト教会牧師）を交えてのシンポジウムも予定されています。

また、先日明石書店より書籍「ホームレス自立支援 ～NPO・市民・行政協働による『ホーム』の回復～」が刊行されました。これは北九州でホームレスの自立支援に関わり協働してきたボランティア、NPOスタッフ、研究者、行政担当者による共著であり、北九州におけるホームレス自立支援のあり方を内容的にも、形式的にも指し示す画期的な書籍です。著者は以下の各氏。山崎克明（はじめに、第2章、第9章）、北九州市立大学北九州産業社会研究所長、現・北九州市立大学名誉教授。奥田知志（第1章、第3章、第4章、第10章）、NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長、日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師。稲月正（本書の構成、第5章、第6章）、北九州市立大学外国語学部教授。藤村修（第7章）北九州市保健福祉局子ども総合センター次長。前・北九州市保健福祉局生活福祉部保護課長。森松長生（第8章）ホームレス自立支援センター北九州生活相談指導員、現・NPO法人北九州ホームレス支援機構常務理事。価格は定価4725円（消費税込み）、支援機構経由なら3800円です。ぜひ一読ください。【下記参照】

北九州におけるホームレス支援は、新たにさまざまな難しい課題に直面しつつあります。地域に暮らす数百名もの自立者に対するサポートを充実させる必要があります。逆にこれからホームレスになる危険性の高い人々への関わりも考えなければなりません。生活保護や就労支援による自立支援だけではカバーしきれない様々な問題を抱えた人々、特に精神的、知的、人格的な障害を負った人に対するサポートがますます必要になってきています。物質的な困窮だけではなく、人間関係において困窮し、住居はあっても居場所としての「ホーム」のない人々も含めた、より総合的な脱ホーム・レス事業も必要です。北九州でのこうした取り組みをどうぞ祈りに覚え、応援していただきますように、お願い申し上げます。

【本の紹介】

- ◆「ホームレス自立支援～ NPO・市民・行政協働による『ホーム』の回復」
- ◆著・訳者名 山崎 克明、奥田 知志、稲月 正、藤村 修、森松 長生
- ◆本体価格 4725円＜支援機構経由なら3800円＞

「ホームレス自立支援の北九州方式」のシステム構築に関わってきた研究者、NPO活動者、行政実務者が成立にいたる背景・過程・実態、それらの諸問題と今後の課題を多角的に分析・紹介。わが国におけるホームレス問題の解決に多くのヒントを提供する。

◆内容構成

第1部 ホームレス問題と定義をめぐって

第1章 ホームレス問題とは何か

- 1 ハウスレス問題とホームレス問題
- 2 トータルサポートの必要性
- 3 もう1つの社会へ

第2章 ホームレスとは誰か

- 1 「ホームレス」の定義の問題
- 2 ホームレス問題の社会経済構造的背景

第2部 北九州市におけるホームレス支援の始まりと展開

第3章 北九州市におけるホームレス支援の始まり

- 1 支援の始まり

- 2 「好きでホームレスをしている？」——偏見と現実
- 3 聴くことから
- 4 基礎的支援としての炊き出し
- 5 自立支援の始まりと自立支援住宅開設
- 6 就労支援
- 7 行政との軋轢、そして新たなる一歩

第4章 NPO法人化と「北九州におけるホームレス 自立支援グランドプラン」

の作成、そして協働へ

- 1 活動目的の明確化とNPO法人化
- 2 「北九州におけるホームレス自立支援グランドプラン」発表
- 3 支援における2つの視点——「5つの基本理念」その1
- 4 自立の5本柱——「5つの基本理念」その2
- 5 「10の事業計画」から
- 6 「グランドプラン」後の協働体制の構築
- 7 自立生活サポートセンター発足——トータルサポートの実現へ
- 8 もう1つの自立生活サポート——ホームレスを生まない社会のために

第3部 北九州市におけるホームレスの状況と支援の方向性

第5章 実態調査から見たホームレスの生活状況——物質的剥奪と社会関係的剥奪

- 1 はじめに
- 2 ホームレスの数と生活の状況
- 3 社会関係と社会意識——関係性における剥奪

第6章 ホームレスになるまでの経緯と自立支援の方向性——公民協働のトータルサポートシステムの構築へ

- 1 目的
- 2 ホームレスになるまでの経緯
- 3 自立支援の方向性

第4部 ホームレス自立支援のための公民協働システムの形成と展望

第7章 北九州市における行政とNPOとの協働の過程

- 1 はじめに
- 2 これまでの北九州市のホームレス問題への取り組み
- 3 ホームレス自立支援法の成立
- 4 北九州市ホームレス自立支援実施計画の策定
- 5 実施計画を実現するために
- 6 NPOとの協働から見たホームレス対策

第8章 協働事業としての自立支援センター——生活相談指導員の立場から

- 1 はじめに
- 2 自立支援センター入所の流れ
- 3 自立支援センターの働き
- 4 自立支援センターの状況
- 5 おわりに

第9章 NPO、市民、行政の「協働」システムによるホームレス問題解決への取り組み——公—民パートナーシップ論の視点から

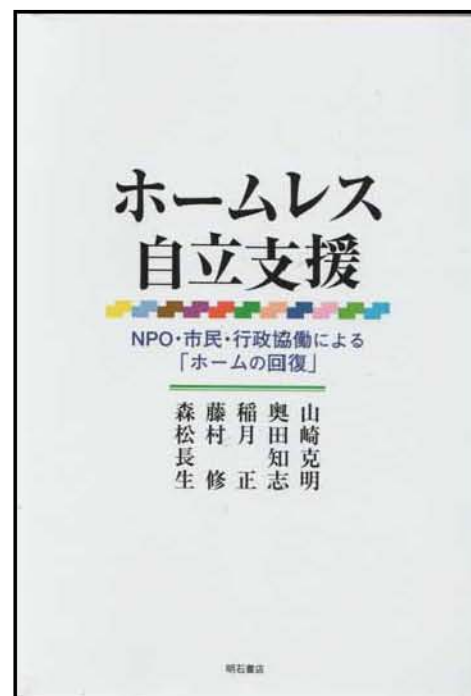
- 1 公—民パートナーシップとは
- 2 公—民パートナーシップの成立の前提
- 3 公—民パートナーシップの価値・制度・過程
- 4 残された課題

第10章 これからの課題——あとがきにかえて

- 1 いのちへの支援——2つの人間観の狭間で
- 2 トータルサポート施設としての自立支援センター
- 3 協働の課題——既存の社会的援護システムにおけるパートナーシップ
- 4 ホームとは何か？——創造的回復をめざして

資料

- 1 NPO法人北九州ホームレス支援機構「北九州におけるホームレス自立支援グランドプラン」（2002年4月1日改訂新版）
- 2 北九州におけるホームレス問題の抜本的解決に関する要望書（2003年7月22日）
- 3 北九州市保健福祉局「北九州市ホームレス自立支援実施計画の概要」（2004年3月）
- 4 北九州におけるホームレス問題を解決するための市民協議会「今後 の北九州におけるホームレス自立支援に関する提言」



いのちの現場 釜ヶ崎(大阪)フィールドツアー& 日本バプテスト連盟ホームレス支援全国活動者会議のお知らせ

連盟ホームレス支援特別委員会は、上記タイトルの企画を準備しております。現在ホームレスの仲間たちと出会っている人たち！これから出会おうとしている人たち！ぜひ！共に集い、み言葉を分かち合い、いのちの現場を分かち合いませんか！心から参加を呼びかけさせていただきます。多数のお申し込みをお待ちしております。

日 程:2006年1月15日(月)～17日(水)

場 所: 大阪教会および釜ヶ崎

宿 泊: 大阪教会 (パックの人は各自手配をお願いいたします。)

参加費: 全日参加＝5000円、初日夜の講演会のみ＝1000円

(交通費補助あります。1万5千円を超える分の補助を予定しております。)

☆主なプログラム☆

その1 講演会

15日(月)夜7時～大阪教会にて

講師：秋山仁牧師(ディアコニーセンターを運営 釜ヶ崎キリスト教協友会代表)

講演題：「希望の家」の活動から見えること

その2 釜ヶ崎フィールドツアー

16日(火)朝9時大阪教会出発

(釜ヶ崎とは日雇労働者の街で簡易宿泊所街ですが、不況などで仕事がなく、ホームレスを強いられている人たちが多くいる街でもあります。)

その3 全国活動者会議および交流会

16日(火)午後4時～大阪教会にて

(それぞれの地域で活動をしている者が集まり、課題と具体的方策を分かち合います)

1月15日(月)	1月16日(火)	1月17日(水)
	9:00 大阪教会出発 10:00 釜ヶ崎到着。 フィールドツアー コディネーター：奥田牧師 (東ノ幡)	9:30 委員会
		11:30 閉会礼拝 説教：奥田牧師(東ノ幡)
	12:00 昼食	
	13:30 教会到着	
14:00 受付		
15:30 開会礼拝 説教：廣島牧師(福岡教会)	14:00 聖書研究(森山) 発題：森山一弘牧師 (浜甲子園教会)	
16:00 各地報告	16:00 活動者会議	
18:00 夕食	18:00 交流会	
19:00 公開講演会 秋山仁牧師(ルーテル) 「希望の家」の活動から		

【フィールドツアー&活動者会議 参加申込書】

日本バプテスト連盟
ホームレス支援特別委員会(担当:中嶋)御中
FAX 048-883-1092

私は「いのちの現場 釜が崎(大阪)フィールドツアー&日本バプテスト連盟
ホームレス支援全国活動者会議」(2007年1月15日~17日)に参加を希望します。

教会・伝道所名

申込者氏名

申込者住所 〒

申込者電話

E-mail

*参加者が複数おられる場合は下記通信欄にその旨お書きください。

*初日の講演会の方のみ参加の方は、その旨お書きください。

<通信欄>

相模中央キリスト教会は、2006年の5月に青少年の伝道隊を京都教会に送りました。京都ではONE VOICEという青少年の聖歌隊がコンサートと礼拝で賛美をし、また京都教会が取り組んでいるホームレス支援活動の炊き出しにも参加しました。この京都での経験がきっかけとなって私は、教会のある大和市の隣の相模原市で教団の教会が12年にわたって取り組んでいるホームレスパトロールにも参加するようになりました。しかし最初から私はホームレスの方に普通に接して、話しをすることが出来た訳ではなかったのです。

京都伝道旅行に備えて準備をしていた同年2月のある休みの日に子どもたち3人を連れて自宅の近くの公園に遊びに行きました。そこには小さな東屋があり、一人のホームレスの方が夜そこを寝る場所にしていたのです。そのことを知ってはいましたが、遊んでいるときにはその方はいなかったので、気にも留めないでいました。しかし夕方になり、いざ家へ帰ろうという時になってその方が自転車を押しながら公園に帰ってきたのです。私見て見ぬ振り。(牧師なのに！) そんな私に当時小学1年生の長男が聞きます。「あの人ホームレス？」私「そうだよ」長男「ねえ声かけないの？」私「・・・。一希がかけたら？」長男「やだよパパがかけて。ねえ声かけないの？」「今日はいいの！」(何がいいんだ！)そしてなるべくその人を見ないようにして家に帰ったのです。自転車をこぎ、顔から火が出るような恥ずかしさに包まれながらもものすごい自己嫌悪に陥りました。

知らないことは恐ろしいと思いました。京都教会の支援活動のことは知っていましたし、これまでもホームレスに関することは様々な形で「勉強」したつもりではいました。しかし自分の奥底に、どこか「ホームレスは怖い人」という思いが巣くっていたのです。そして目の前にいて、子どもでさえ気にしているやさしそうなおじさんにさえ声をかけられなかったのです。そんな私に、教会の青年から相模原で行われているホームレス支援のパトロールに参加しないかという誘いがかかります。恐る恐る参加したのですが、行ってみて拍子抜けしました。公園で暮らしているホームレスの方々は、自分たちと何ら変わることもない「普通の」人たちでした。自分の持っていた思いこみが見る見る溶かされていくのが分かりました。同じことは京都でも経験します。教会でお話したり、一緒におにぎりを握った現役のホームレスの方。そして市役所前で出会った方々。みんなやさしい笑顔をもったすてきなおっちゃん達でした。

これらのことを通して、私の中に「ほっとけない」という思いが起こされます。どうして彼らがホームレスの状況に押しやられるようになったかを知ると、そこには彼らだけの責任ではなく、彼らをそこに押しやった社会の冷たさが見えるからです。そして彼らをそこに押しやっている一人として、いえもっと根本的に、神様から命をいただいている同じ人間同士、助け合えないかと思い始めました。その後、自宅近くの公園で暮らすおじさんに会いに行きました。小柄で話し好きな優しいおじさんでした。自分で拾ったという色々なものを初対面の私に見せてくれました。今ではそのおじさんの所に2週間に一回の割合で訪ねていっています。

自分の小ささに出会うことから始まったこの歩み。まだ自分に何が出来なのか分からないことだらけです。まずはそこにいる方の声に耳を傾けてみたいと思います。いつかこれが教会の働きになったら良いなと夢見ながら。

ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。当委員会が把握できていない情報、「ここでもやっているよ」「うちでもやっているので載せてほしい」という情報がありましたら、ぜひ、連盟事務所気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。

尚、ここに記していない教会・伝道所以外にも、献金や物資献品などを通して支援活動をささえてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心とお祈りを感謝いたします。

【高崎地区】

日本バプテスト連盟高崎キリスト教会
027-353-6228

【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡キリスト教会
047-332-5197

日本バプテスト連盟市川大野キリスト教会
日本バプテスト浦和キリスト教会

【藤沢地区】

藤沢バプテスト教会
0466-23-1088

【平塚地区】

平塚バプテスト教会
0463-33-2320

【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会
058-265-0881

愛知新生キリスト教会

【京都地区】

日本バプテスト京都教会
075-231-1351

【平野地区】

平野バプテスト教会
06-6708-5852

日本バプテスト連盟シオンの丘教会

【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会
0798-41-5300

宝塚バプテスト教会

尼崎バプテスト教会

神戸バプテスト教会

神戸西バプテスト教会

神戸伊川キリスト教会

【香川地区】

日本バプテスト連盟恵キリスト教会
087-861-0523

【北九州地区】

日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会
093-651-6669

南小倉バプテスト教会

日本バプテストシオン山教会

若松バプテスト教会

日本バプテスト枝光キリスト教会

【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会
092-741-6256

バプテスト東福岡教会

平尾バプテスト教会

長住バプテスト教会

日本バプテスト連盟宇美キリスト教会

【久留米地区】

日本バプテスト連盟久留米荒木キリスト教会
0942-27-0116

日本バプテスト連盟久留米キリスト教会

【沖縄地区】

日本バプテスト連盟那覇新都心キリスト伝道所
098-942-4775

◆もうお読みになりましたか？◆

- 「ホームレス支援に関するシンポジウム報告書2003年」（2003年9月発行）
- 「ホームレス支援に関するシンポジウム報告集2005年」（2005年6月発行）

残部僅少です。お入用の方は、連盟事務所内ホームレス支援特別委員会、または上記の支援教会にお問合せください。一冊500円のカンパをお願いしています。